

「今年度の修学旅行はどうなるのだろう・・・。」

6年生になり、1学期が始まった時からずっと頭のどこかにそれがありました。

夏休み前、感染対策を十二分に考慮し、なんとかこれだと組んだ阪神方面への修学旅行が難しい状況となり、福井県方面への修学旅行になった際、「それでもみんなで行けるから」と前を向く子どもたちの姿がありました。夏休み中、保護者説明会も開催し、何とかこれだと思った矢先、「宿泊を伴わない」という判断が舞鶴市から下されました。

そのことを子どもたちに伝える始業式の前日、何度も子どもたちの顔が脳裏をよぎりました。1学期、休校期間中も、この「修学旅行」に行くために必死で我慢を続けてきた子どもたち。遊びたいのを我慢して、友達にも会えず、それでも必死の思いで我慢を続けてきた子どもたちにどう伝えればよいのか……。そしてその子どもたちを一番近くで支えてくださる保護者の方々の思いは……。色々な思いが浮かんで沈み、また浮かんでくるような心境でした。

始業式の朝、夏休み明けの挨拶もそこそこに、「宿泊を伴う修学旅行」の中止を子どもたちに伝えました。とても静かでした。きっと、いろいろな思いが心をかけめぐったのでしょう。

正直、涙が止まりませんでした。子どもたちは、自分たちの行動が「修学旅行」につながっていると信じ、たくさん約束を守ってくれたのに、先生たちはみんなが楽しみにしていたものを守ってあげられなかった。その思いでいっぱいでした。しかし、その涙を止め、前を向かせてくれたのもまた子どもたちであり、保護者の方々でした。

「日帰りでもその1日を楽しもう。」

「できることを全力でやろう。」

「行けるだけありがたいことなんだ。」

多くの言葉を子どもたちや保護者の方々からいただきました。

本当に大変な状況の中で、43名全員でこの日を迎えることができたのも、ひたむきに今の状況を楽しもうとする子どもたち、そして笑顔で送り出し、迎えてくださった保護者の方々のおかげです。担任一同、心よりお礼申し上げます。

この特別な1日を、一人一人が確かな成長へとつなげ、さらに力を伸ばしていけるように、卒業までの残り半年間、全力で指導に当たっていきたいと思います。今後とも、ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

～6年生担任一同～